

県庁舎等整備に伴う財政フレームへの影響について

1 試算の前提

- (1) 令和7年度当初予算に基づく財政フレームに県庁舎等整備に伴う影響を反映。
- (2) 以下概算事業費をもとに、R11～R15の5か年で整備するとして試算(事業費を均等按分)。
 今回計画: 650億円(別途関連経費:160億円)
 従前計画:1,010億円(別途関連経費: 60億円) ※ R7時点単価で見込

2 試算の結果

(1)収支への影響

県庁舎等整備に係る公債費や起債充当残により、現行フレームからは最大30億円程度収支が悪化するが、従前計画よりは最大40億円程度改善。

(単位:億円)

区 分	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
収支不足額	0	▲ 60	▲ 60	▲ 40	▲ 60	▲ 70	▲ 80	▲ 60	▲ 55
(うち今回計画影響) A					(▲ 20)	(▲ 20)	(▲ 25)	(▲ 25)	(▲ 30)
(参考:従前計画影響) B					(▲ 45)	(▲ 50)	(▲ 55)	(▲ 60)	(▲ 70)
A-B					25	30	30	35	40

県庁舎等整備に伴う財政フレームへの影響について

2 試算の結果

(2)実質公債費比率への影響

県庁舎等整備の影響により、現行フレームから最大0.1%悪化するが、従前計画よりは0.1%改善。

区 分	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
実質公債費比率【単年度】	23.5%	22.5%	23.0%	23.4%	23.9%	23.4%	23.3%	23.1%	22.6%
(うち今回計画影響) A								(0.1%)	(0.1%)
(参考:従前計画影響) B						(0.1%)	(0.1%)	(0.2%)	(0.2%)
A-B						(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)
実質公債費比率【3か年平均】	19.8%	21.5%	23.0%	23.0%	23.4%	23.6%	23.5%	23.2%	23.0%
(うち今回計画影響) A									(0.1%)
(参考:従前計画影響) B							(0.1%)	(0.1%)	(0.2%)
A-B							(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)

(3)将来負担比率、経常収支比率への影響

県庁舎等整備の影響により、現行フレームから将来負担比率が最大4.6%、経常収支比率が0.1%悪化するが、従前計画よりはそれぞれ最大2.8%、0.1%改善。

区 分	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
将来負担比率	308.6%	306.9%	299.6%	292.9%	287.1%	281.6%	274.4%	268.0%	261.4%
(うち今回計画影響) A					(1.0%)	(2.0%)	(2.8%)	(3.7%)	(4.6%)
(参考:従前計画影響) B					(1.6%)	(3.2%)	(4.6%)	(6.1%)	(7.4%)
A-B					(▲ 0.6%)	(▲ 1.2%)	(▲ 1.8%)	(▲ 2.4%)	(▲ 2.8%)
経常収支比率	98.3%	99.4%	98.1%	98.5%	97.2%	98.2%	96.9%	97.7%	97.5%
(うち今回計画影響) A								(0.1%)	(0.1%)
(参考:従前計画影響) B							(0.1%)	(0.2%)	(0.2%)
A-B							(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)	(▲ 0.1%)